

機動戦士Zガンダム外伝

STRAYSHEEP

第一部 グロリア・チェンパレー



機動戦士Zガンダム外伝

STRAY SHEEP

第一部 グロリア・チェンバレー

この作品は、「機動戦士ガンダム」シリーズの作品群に
筆者独自の解釈を加え、再構成したものです。
そのため、公式設定とは異なる部分があります。

3XALT

目次

プロローグ	4
グロリア・チェンバレー	6
A. E. U. G.	17
シメオンの影	31
新しい絆	52
マリアの声	66

巻末付録

人物大辞典	78
モビルスーツ大図鑑	93

プロローグ

宇宙世紀0079年―

人類が、増え過ぎた人口を宇宙に移民させるようになって、半世紀がすぎたころ……。

地球から最も離れたコロニー群（サイド3）は、
《ジオン公国》を名乗り、地球連邦政府に対し独立戦争を仕掛けた。

公国軍は、宣戦布告と同時に各サイドへ奇襲を敢行。続いて連邦軍本部が置かれていた南米・ジャブローへの《コロニー落とし》作戦を発動させた。

人類史上初となる通信や電探をほぼ無効化する《ミノフスキー粒子》の広域散布や人型機動兵器《モビルスーツ》の実戦投入などにより、公国軍が優位に戦闘を展開したものの、連邦軍の必死の抵抗によつて軌道は大きくそれ、コロニーは大気圏突入後に分裂、先端部分はオーストラリア大陸東

岸へと到着し、シドニーを中心とした沿岸部に、有史以来最大の人工クレーターを穿った。

残る大片は太平洋上、北米大陸へと到着、無数の小片は地球全土へと降り注ぎ、衝撃波や津波、気候変動といった2次被害による犠牲者は23億人に上ったという……。

この1カ月余りの戦いで、ジオン公国と連邦軍は、総人口の半数を死に至らしめたことになる。

人々は、自らの行為に恐怖した……。

この後も公国軍が優勢であったが、国力の差から戦況はこう着状態に陥る。そして、ジオンに遅れること約半年、モビルスーツの実戦投入を開始した連邦軍が反撃に転じた。

対するジオン公国はすでに疲弊しており、また、トップであるザビ家内部のあつれきから、有効な

反撃作戦を展開できずに敗退を続け…ついには
肉親同士の殺し合いにより崩壊、終戦を迎えた。
このへ一年戦争と呼ばれる戦い以降、戦場はモ
ビルスーツという名の鋼鉄の巨人たちが支配する
ようになる……。

グロリア・チェンバレー

宇宙世紀0086年末 月近海―

幾億もの星々の瞬きの中、ひとときわ輝きを放つ光が、数回点滅を繰り返し消えた……。やがて地球の影から抜け、月光に照らし出されたのは、1機のモビルスーツだった。

「こちらRX-098のテストパイロット、グロリア・チェンバレー、指定ポイントに到着しました」

球状のスクリーンに包み込まれた操縦席に収まったパイロットスーツの人物がそう告げると、正面のスクリーンに通信ウインドウが表示され（こちらラビアンローズ。感度は良好のようね。問題がなければテストを開始します）

と画面の中で赤毛の若い女性が応答した。

彼女が言うように、映像に多少のノイズが混じるものの、通信に大きな障害はなく、残留ミノフスキー粒子などの影響はないようだ。

「いつでもどうぞ」

（OK、グロリア。今回は、スラスタールと火器管制のテストよ。このテストの結果が良好なら、その機体でのデータ収集はほぼ終わり。良い結果を期待しているわ）

「了解。ご期待に沿えるよう努力します」

告げられた内容に対し、軽口で答えたグロリアもまた、若い女性である。

（ふふ…では、こちらが出す指示に通りに行動してください）

「了解です」

新たにウインドウが開き、機体を中心として立体的に再現された周辺図が示された。その中に“A”の文字が見える。

（まず、Aポイントの目標まで移動。目標に到達したら、次の指示を与えます。制限時間は3分よ）

「了解！」

グロリアの返事を聞いた赤毛の女性は、周囲のス

タツフの準備が整ったことを確認するとテスト開始の指示を出した。

「行くわよ！」

それ聞くや否や、グロリアはフットペダルを踏み込み、背後のメインスラスタを全開させて機体を急発進させた。

グロリアが操縦するのは、現在テスト中の機体である。

ポリウムのある胸部や外側に大きく広がった脚部は、ジオン公国軍のモビルスーツ『ドム』を連想させたが、腰周り、肩といった部分は、平面の組み合わせによって形成されており、全体としては地球連邦軍系モビルスーツのデザインであるように見えた。

スラスタを噴かし前傾姿勢で進む機体を、時折、右へ左へと傾け旋回させる。AMBA C（アンバク）と呼ばれる能動的質量移動による自動姿勢制御機能：手足などを動かすことにより生まれ

る反作用を機体制御に利用するシステム：も十分に作動しているようだ。

「機体の調子はいいみたいね！」

そう言うってグロリアは、さらに速度を上げた。各計器類がレッドゾーンに達するぎりぎりの数値を維持するよう四肢を巧みに使って機体を操りつつ、3Dマップ上に表示された指定ポイント“A”と機体の現在地を表す光点が重なるよう軸を合わせる。あとはスラスタを全開させるのみ。

力いっぱい、フットペダルを踏み込み、スロットルレバーを押し込む。やがて、認識灯を点滅させた岩塊が見えた。

岩塊に接近し、座標軸と機体の位置が完全に重なったのを確認したグロリアは、逆噴射をかけて機体を静止させ「目標宙域に到達！」と報告した。制限時間までには、かなり余裕を残してのゴールだった。

（了解、さすがね。査定もプラスしておくわ）